

Syllabus Id	Syl-052
Subject Id	Sub-062-243002
更新履歴	20060116 新規
授業科目名	文学特論
担当教員名	坂本信男
対象クラス	D4
単位数	2履修単位
必修/選択	必修
開講時期	通年
授業区分	人文・語学
授業形態	講義
実施場所	D4 教室

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)

涵養された知力・国語力を用いて、様々な世界に通ずる読書体験をし、合目的で正確、且つ分かり易い情報作成(作文レポートその他のプレゼンテーションを含む)の基本を学ぶ。

準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)

3年間学んだ国語の基礎知識

学習・教育目標	重み	目標	説明
		A	工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
		B	社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
		C	工学専門知識の創造的活用能力の養成
		D	国際的な受信・発信能力の養成
		E	産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成

学習・教育目標の達成度検査 前後期試験・レポート・調査発表・小試験によって検査。

1. 該当する学習・教育目標についての達成度検査を年度末の目標達成度試験を持って行う。2. プログラム教科目の修得と、目標達成度試験の合格を持って当該する学習・教育目標の達成とする。3. 目標達成度試験の実施要領は別に定める。

授業目標

- ・言葉表現の正確な理解から、背景の思想・発想の源、時代思潮等について、広く考え推測する。
- ・多くのテキストにふれて、その様々な発想・表現語彙・語法・文章構成等を身につけ、応用する。
- ・単なる文芸鑑賞者・国語学習者から一歩ふみ出し、実践的に考え、発想し、十全に伝達・表現する。

授業計画(プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)

回	メインテーマ	サブテーマ	参観
第1回	前期オリエンテーション	「言葉・表記・論理・文章」 その潜在的仕組みと、如何に学ぶかについて。	
第2回			
第3回		古代語の世界規定 (講義)	
第4回		「万葉集から」 現代日本語はどう変化したのか。それは何故か。	
第5回			
第6回		中世・過渡期の時代人に学ぶ 人生の本質	
第7回		「つれつれ草」精読 (含む; 演習・発表。)	
第8回			
第9回			
第10回			
第11回		「つれつれ草」を例に、日本の文化生成と継承の実態(中世~江戸)(講義)	
第12回		中世人物点描(静岡東部と中世文化人・調査と発表)(演習)	
第13回		理科系の作文法・レポート指導	

第 14 回			
第 15 回	前期末試験		×
第 16 回	後期オリエンテーション	日本の近代 近代の始発について (北村透谷・中村光夫)	
第 17 回		夏目漱石・寺田寅彦・内田百閒 日本近代史の一面	
第 18 回		漱石精読	
第 19 回			
第 20 回			
第 21 回		寅彦精読	
第 22 回			
第 23 回		百閒精読	
第 24 回			
第 25 回			
第 26 回		Emile August Chartie より	
第 27 回			
第 28 回			
第 29 回		レポート報告	
第 30 回	後期末試験		×
課題とオフィスアワー			
木曜以外、略、全週日。			
評価方法と基準 評価方法			
試験・提出物中心。 + 演習発表；学生間相互評価（互いの理解にどれほど資することができたか。）			
評価基準			
十全な準備・正確な知識・伝達価値評価・表現の的確性・文章構成の工夫・情報作成首尾などを検査する。			
教科書等	プリントテキスト配布。(学生の学力状況等に柔軟に対応し、より適正なテキストに差し替えることを含め、十全な指導を図る予定。)		
先修科目			
関連サイトの URL			
アンケート対応	板書等、情報を可及的に縮小整理し、なるべく評価検査に応じたもののみ絞ることとする。		
備考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2. 授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも 1 週間前に教科目担当教員へ連絡してください。 		